

氷川神社社報

第44号

発行

石神井氷川神社
練馬区石神井台 1-18-24
宮司 奥野 雅司
電話 03(3997)6032

悠仁親王殿下を寿ぐ

氷川神社宮司 奥野 雅司

悠仁親王殿下が九月六日に満二十歳を迎えられました。洵に慶賀に堪えません。平成十八年のこの日、私は佐賀県へ旅行中でありました。海が見える唐津城に程近い旅館で殿下ご生誕のニュースに接し、お料理を頂きながら家内とささやかに乾杯したのを思い出します。殿下は昨年に成年式・加冠の儀を終えられ、成年皇族として公務に励んでおられるのはご存知の通りです。今夏は広島で開催されたボーイスカウト・日本ジャンボリーにもお出ましになりました。

折しも本年七月には悲願であった皇室典範の改正が実現し、旧宮家から男系男子孫を皇族の養子に迎えることが可能となりました。悠仁親王殿下が皇位にお就きになられる頃には、皇族男子が増えています。旧宮家の方々は今でこそ一般人と同じ境遇で生活して居られますが、戦前までは正に皇族で在られた訳ですから何も不思議はありません。戦後のアメリカ占領軍の圧力によって皇籍を離脱させられていたのが、八十年を経てやっと正常な状態に

復したのです。この機会に皇位継承に関わる儀礼と装束について少し紹介しておきます。天皇陛下の御許にある三種の神器は有名ですが、皇位継承第一位の皇太子の御印に壺切御剣(つばきりのぎよけん)があります。これは皇嗣で在られる秋篠宮殿下の許にあります。悠仁親王殿下の着袴の儀(民間の七五三)の時に上皇陛下が贈られた装束の襟元の綴じ絲は、天皇・皇太子にのみ許される山科流の縦十字でありました。上皇陛下の大御心が窺えます。

殿下は生物学、とりわけトンボの生態にご興味がおありと承っております。我が石神井公園の三宝寺池周辺はトンボの生息地として有名です。そう遠くないうちにお忍びで公園にお出ましになられないかなと、密かに期待しているところです。

今年は雨による災害は各地で起きておりますが、皆様に於かれましては穏やかで実り多い秋でありますよう、謹んでお祈り申し上げます。



水系の神々

令和の大水害

令和八年も終盤に差し掛かり、現在は秋真盛りです。今年の干支は丙午で、自然災害や火事などの火に纏わる出来事が多い年とされ注意が必要と言われています。

しかしながら、夏を迎えてから日本列島近辺には台風がほぼ絶えず発生していて、その影響は甚大なものとなりました。特に熊本県と千葉県、東北地方、石川県は大きな被害を被りました。また、中国やネパールといった海外でも大きな水害が発生しています。

中国春秋時代の斉国宰相 管仲が記した『管子（牧民編）』には有名な「倉廩（そうりん）満れば則ち礼節を知り、衣食足りれば則ち榮辱を知る（倉廩實則知禮節，衣食足則知榮辱）」が記されていますが、もう一つ治水についても記されています。『管子（度地編）』「国を治めるには五害（水・旱・霜雹・疫・蟲）を取り除くことが必要で、治水を以て始まりと為す（水一害也，旱一害也，風霧霜一害也，厲一害也，蟲一害也，此謂五害。五害之屬，

水最爲大。五害已除，人乃可治）」としています。国を治めるには五害を取り除くことが必要で、その中でもまず初めに治水から手を付けるべきであると言っているため、治水の重要性はこの時代から認識されていたと言えます。



斉国宰相 管仲

治水については、現在でも最も大切なことの一つと考えられていて、日本ではかなり強力な対策が取られています。都市部では特に様々な対策が取られています。地方であってもかなりインフラが整っています。

しかしながら、これだけ対策が為されていたにも関わらず今年の雨量は異常でした。排水が間に合わず、想定を遥かに超える雨量を記録したことは大きな衝撃と共にニュースになりました。

水の流れ

水は災害をもたらすだけではあ

りません。地球は水の惑星と称えられるほど水が豊富で、「水は循環する地球の血液」とも言われます。また、弥生遺跡から出土した土器には流水紋が見られることもあり、生命を育む生活には不可欠な存在であったことが分かります。

水がある場所は山野と河川に大別することができます。山野の水は、山領の分水（水を分ける）、水干（沢の奥）、湧き水、流水に分けられます。河川は治水を考えるうえで重要で、「暴れ川」の利根川、「暴れ天龍」の天竜川、木曾三川や玉川上水が有名です。

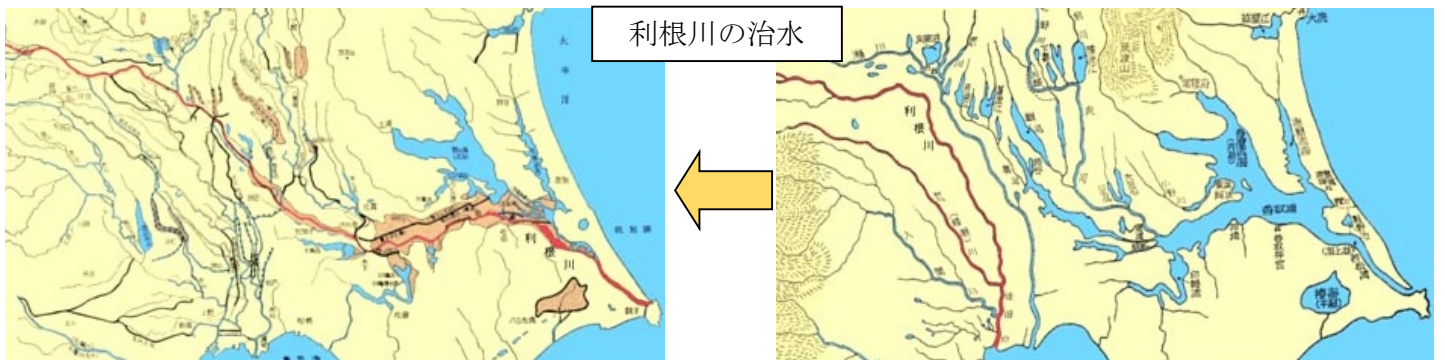
利根川は幾度となく大雨の際に大きな水害をもたらしており、徳川家康が江戸城に入城した際に氾濫を恐れた家康は、水路や支派川・堤防などを築いて流れを東に寄せて銚子から海に流れ出るよう河川改修をしました。

天竜川は諏訪湖を水源に、遠州灘へ注ぐ急流性の川で、現在でも治水度は低いとされていますが、昭和四十年頃から狭窄部の拡幅工事や各所の改良を行っています。

水の神様

河川をはじめ豪雨などで災害をもたらすこともある水は、生活に

利根川の治水



農林水産省関東農政局 HP「利根川水系の歴史」より

においては欠かすことができないもので、また農作物を育てるためにも大変重要です。恵みに感謝すると同時に災いを起こすことが無いよう、水を司る神様は古来より信仰されてきました。

『古事記』には水に関わる水神として分類されている神様が複数登場します。神話によれば、伊邪那岐・伊邪那美命が国土と神々を生んだ時に伊邪那美命の尿から弥都波能売神（水波能売神・ミズハノメノカミ）が生まれました。



国生み・神産み

また、伊邪那岐命が加具土命を切りつけた太刀に付いた血から於迦美命（高竈神・タカオカミ）が生まれました。高竈神は、京都の貴船神社の御祭神です。

他にも、伊邪那美命の死を悼んで伊邪那岐命が流した涙からは泣澤女神が生まれました。神話にはこの他にも多数登場します。

水が向かう方向

水が伝わる経路は天上から地上への垂直と、地上を移動する水平があります。

神聖な恵みの水は天上からもたらされると考えていました。柿本人麻呂は和歌に天来の真清水に寄せる心情を「四方の人の大船の思ひ頼みて天つ水仰ぎて待つに」（『万葉集二一六七番歌』柿本人麻呂）と「領民が大船のような期待を持つて慈雨を待つ気持ちで天を仰いで待つていた」と綴っています。また、天皇の御代替わりを中臣氏が祝福する祝詞である「中臣寿詞」では、天皇の飲料水は天上から得てきたものとする述べています。

「中臣寿詞にあつては、天兒屋根命が、その子である天忍雲根神を天の二上山に上せ奉りて、“皇御孫命の御膳都水は顕し国の水に天都水を加えて献りましよう”と神ろぎ神ろみの命の前に申すよう遣わした」

（『神道儀礼の原点』沼辺春友）
中臣氏同様に出雲国造も上京して神賀詞（かんよごと）を捧げています。趣意は月の水、則ち月読命の御力を頂いた変若水（をちみ

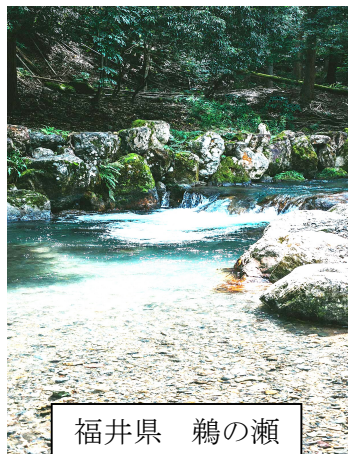
ず）によって永遠に若返らせる“命の水”を捧げることでした。天から恵まれる水の持つ生命力は再生を繰り返すことで常に新しく、月の満ち欠けと共に営まれる月・海水・生命の関連は切り放すことが出来ません。また産湯や末期の水（死に水）のように、水は生命と深い繋がりを持っていることが分かります。

水に纏わる祭りは沢山あって、京都貴船神社のお祭りは有名ですが、水平方向に繋がる水の祭りとして有名なのは奈良県・東大寺二月堂と福井県小浜・国幣中社若狭姫神社（遠敷明神社）のお水送りです。

東大寺創建の折、開眼供養を行うにあたり行の成功を祈念して「神名帳」を読み上げて日本中の神様を一堂に集めた際、遅れて参じた遠敷明神が行を見て感動し、若狭（小浜）から毎年水を送ろうと考え、明神の神力で二月堂脇に若狭井（井戸）を作ったと伝えられています。以後千三百年に亘って毎年三月十二日に東大寺のお水取りはこの井戸から汲み取られています。この十日前には若狭姫神社別当寺神宮寺（若狭神社神願

寺）でお水送りが行われます。

「本堂脇の閑伽井戸で汲まれた水は白装束の山伏たちによって「鵜の瀬」に運ばれ十日かけて若狭井にたどり着くのです」（小浜市観光おはまナビHPより抜粋）



福井県 鵜の瀬

欠かすことのできない水

人が生活するためには、水は欠かすことができません。本居宣長は神様の定義に「尊き事、善き事、功しき事の優れたるもののみを云ふにあらず」と加えています。それ故に恵みへの感謝と共に災い無きよう水の神様を大切にお祀りしてきました。

西洋と違い日本の水は軟水で、地下水やミネラル豊富な湧き水は甘いと称され飲用水としても欠かせません。我々日本人にとって、先人たちの水の神様への想いを次の世代へと繋ぐことは、大切なことではないでしょうか。

氷川神社行事予定

(秋・冬)

例祭

【日程】

十月十七日(土) 宵宮 十八時
十月十八日(日) 大祭 十四時

お囃子、里神楽、露店他。年に一回の大祭。本年度の行事内容詳細はまだ未定なので、決まり次第HP等でお知らせします。

※例祭当日は社殿での祈禱が出来ませんのでご注意ください

七五三受付

氷川神社では七五三の御祈禱を受け付けております。予約は必要ありません。

直接社務所にお出まし頂き、お申込み下さい。受付時間は左記の通りです。祈禱料につきましては、お子様お一人につき伍阡円以上でお受けしております。

【十一月中の祈禱開始時間】

十時から十五時まで一時間毎に一日六回祈禱を行っております。開始時間の十五分前までに全員揃つ

た後受付をして下さい。

新嘗祭

【日程】

十一月二十三日(祝) 午後二時

収穫を感謝し、新米を御神前にお供えする神事。大祭とならぶ重要な神事で、宮司自身による舞が奉納されます。当日はどなたでも参列して頂けますので、開始時間十五分前を目途にご参集下さい。詳細は神社掲示板又は当HPにてご確認ください。

尚、神社祭典のため当日二時の回は祈禱受付がありませんので、ご注意ください

釜ペ(かまじめ)

【日程】

十二月中旬

新年を迎えるにあたり神札を受けて祀りかえることを総じて釜ペと云います。神棚に納めるお札・御幣(ごへい)一式と、同じく台所に祀る荒神様(こうじんさま)のお札もお頒ちしています。釜ペ一組には左記のものが収められています。必要に応じて内容を変更できますので、詳しくは社務所にてお尋ねください。

- 天照皇大神、氷川大神の御神札
- 歳神様(としがみさま) 御幣
- 台所に祀る荒神様の神札と御幣
- 晦日祓い(みそかはらい)
- 注連縄用の紙垂(しで)



イベントスタッフ募集

氷川神社では「井のいち」「ちやが馬七夕」を始め、諸行事のボランティア・スタッフを募集しております。神社にご興味がある方、イベント運営の経験がある方、伝統行事芸能や神事に関心をお持ちの方、神社社務所までご連絡願います。

氷川神社社務所

03(3997)6032

玉祓いのススメ

玉祓いは、穢れを玉に移し投げ割ることで厄を祓うものです。

神社では半年に一度穢れを祓う為の大祓いを行います。穢れは普段の生活の中で気が付かないうちに少しずつたまってゆくもので、時には良くないことを引き寄せる”祓うべき対象”です。

大祓いでは依代である人形(ひとがた)に穢れを移して祓いますが、玉祓いでは玉に息を吹き込むことで穢れを移し、祓い石に向かって投げ割ることで穢れを祓うものです。どなたでも気軽にご参加頂けます。日頃の生活の中であつとしたお祓いをする場合に、是非お試しください。



初穂料 五百円